

### 3 令和3年度学校目標

	視点	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から教育課程の統一と見直しを図り、生徒が主体的に取り組む授業作りを行う。	生徒一人ひとりの障害の状況や発達の段階を的確に捉え、新学習指導要領に沿ったカリキュラムマネジメントを推進していく。	① 校内研究を通じ、「指導の見える化」を行う。適切なねらい、授業内容、環境設定を教科会や研究日を通じ協議し、これからのカリキュラムを検討していく。 ② 生徒と共に授業を振り返ったり、専門職の助言を活かしたりしながら、生徒一人一人の実態に合った授業改善に取り組むとともに、教員の専門性の向上を図る。	① 授業略案の活用等、授業改善のシステムを構築できたか。また、新学習指導要領、生徒の実態に応じたシラバスを作成できたか。 ② 生徒と共に授業を振り返ったり、専門職の助言を活かしたりしながら、生徒一人一人の実態に合った授業改善を図れたか。また、教員の専門性向上が図れたか。
2	生徒指導 ・支援	生徒一人ひとりの人権に配慮し、個別の教育的ニーズに応じた指導・支援を計画的、組織的に行う。	多職種が連携し、多面的に実態を把握し一人ひとりのニーズに応えるために情報共有の仕組みを構築する。	① 様々な校内外の資源を有効に活用し、個々の生徒に応じた適切な個別の支援計画を作成する。 ② コミュニケーションの授業等を通して、人権意識の醸成を図る授業モデルを提示する。また、研修を通していじめの未然防止、早期発見に努め、生徒、保護者からの相談に対応する。	① 校内外の資源を生かしたケース会が開催され、有効に活用されたか。本人・保護者と適切に課題を共有し、適切な支援計画が作成できたか。 ② コミュニケーションの授業等を通して、人権意識の醸成を図る授業モデルを提示できたか。また、相談に早期対応、いじめの早期発見、早期解決できたか。
3	進路指導 ・支援	生徒一人ひとりの自己実現をめざし、自ら選択、決定できる進路指導・支援を行う。	自立と社会参加に向け、将来の生活をイメージし、系統的なキャリア教育を推進する。	① 生徒・保護者の思いや願いを聞きとり、受け止め、一人ひとりにあった進路指導、支援を組織的に行う。 ② 系統的、段階的に卒業後の生活をイメージし、自分自身の適性を知ることができる進路学習、進路指導、支援を行う。	① 生徒・保護者の思いや願いを聞きとり受け止め、一人ひとりにあった進路指導、支援を組織的に行うことができたか。 ② 系統的、段階的に卒業後の生活をイメージし、自分自身の適性を知ることができる進路学習、進路指導、支援を行うことができたか。
4	地域等との 協働	インクルーシブ教育の推進を図るために、校内教職員・保護者・地域の理解促進、地域の諸学校、諸機関への発信、貢献活動を行う。	「地域に開かれた学校」を意識し、校内外の資源を活用した教育活動の充実に向け、地域への発信を推進する。	① 学校HP、支援だよりなどを活用するなど学校情報を積極的に発信し、地域に開かれた「お互いが見える」関係づくりに努める。 ② 地域の多様な相談内容に対し、迅速に関係機関などと連携し対応する。	① 定期的にHP、学校だより、支援だよりの掲載を行い本校の活動情報について積極的に発信することができたか。 ② 地域の学校への巡回相談や地域の多様な相談内容に対し、関係機関と連携し、取り組むことができたか。
5	学校管理 学校運営	学校運営の組織的な体制と安全・安心な学校作りのための体制の構築を図る。	・働き方改革推進に向け、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ・様々な場面を想定し、体制と防災教育の充実を図る。	① 会議、行事の精選を図り、学校閉庁日、ノー残業デー設定し、働きやすい職場にする。 ② 現実に即した防災マニュアルの見直しを行うとともに、実効性のある防災訓練を実施する。また、学年と情報共有することで防災学習にも反映させていく。	① 会議、行事の精選、学校閉庁日、ノー残業デーの設定ができたか。 ② より現実に即した防災マニュアルの見直しをすることができたか。防災訓練が実効性のあるものになったか。また、訓練や防災学習を通じて生徒が自助の意識を持つことができたか。